

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ピュアグローブ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山形県米沢市通町2丁目5-62
記入者名 (管理者)	鈴木 ルリ子
記入日	平成 20年 9月 1日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での生活や関係性の継続を支え、敬愛の心と絆を大切にされた触れ合いで、互いに響き合い、互いに共鳴し合い豊かな地域社会づくりを目指してゆくことを基本指針とし、理念を作りあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時及び研修会などにて説明し、定期会議や日々のミーティングの場において職員に具体的に話し、周知と共有化を図りながら、理念に基づいた具体的なケアを話し合いながら、実践に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域広報誌を発行し、町内の公民館に置いていただき、民生委員にも活用いただいている。運営推進会議開催時に家族や地区委員、民生委員など地域の人々へ理念の実践を報告し、理解してもらえよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りなどのホームの行事へ隣近所の方々に気軽に参加していただき交流を図りながら、日常的な付き合いができるよう努めている。また、日常的に近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。町内の回覧板を回していただくことで、きっかけ作りに活かしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や文化祭に参加し、地元の方々と交流を図っている。また、地域活動の情報を集め、行事など利用者も一緒に参加が可能かその都度検討している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域活性を目的として、ホームに於ける行事を地元参加型として実施し、地域高齢者を含め楽しみある機会の提供としている。 (四季の祭りなど)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議を通し、運営者、管理者はサービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。外部評価の結果は会議の場で報告し、具体的な改善に向けて検討し、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業の活動内容や支援状況、利用者の状況、外部評価の実施とその活用について報告し、構成員より率直な意見をもらい、地域に開かれたサービスの質の向上に活かすよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営に際し、その基準や対処等について、市町村担当者との相談を密に行い、ホーム対応として可能な限り精一杯のサービス提供に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料を回覧し、職員間の理解と共有化を深め、行政の担当者へ相談により直接説明を受けるなどし、情報の収集や学ぶ機会になっている。対応が必要と思われる利用者へは、家族等と話し合いながら、情報提供をし、支援に結び付けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県や市の研修会に参加し、会議で報告して内容を共有しながら周知と理解を深め、職員間で話し合いを持ちながら、虐待が見過ごされることがないように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の内容や重要事項に関して不安や疑問点を尋ねながら十分に説明を行った上で、同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問を受け入れ、交流を図りながら利用者の声を聞いていただき、率直な気づきの意見をもらい、改善点は日々のミーティングや会議の場で話し合い、運営や日々のケアに活かしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活面、健康面、往受診状況、行事案内等詳細にお便りにして毎月家族へ送付し、来訪時には利用者の暮らしぶりや健康状態、エピソードなど伝えている他、使途や金銭の出納状況など説明しながら小遣い帳を確認してもらい、家族のサインをいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置している。家族が訪問時には職員との信頼関係を大切にしながら利用者の現況を伝え、意見や要望がないか常に問いかけている。出された意見や要望は日々のミーティングや申し送り、会議の場において周知を図っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや定期会議を通し、職員の声を聴取し、反映するように努めている。また、必要時個別に意見を聞く機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応ができる勤務シフト及び勤務体制になっており、必要時職員間で話し合いながら調整を図っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の知識や技術の向上を伴った異動を必要とする場合もあるが、その異動に際しては、利用者の生活環境やホーム内の雰囲気、バランスを考慮した異動とし、継続性のあるサービス提供に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、OJT、OFF-JT共に職員の段階に応じた研修を受講できるようにしている他、業務の中で『気付き』の中から学ぶ機会作りを行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他グループホームへ交換実習を行う他、他法人より行事や相互訪問を通じ、情報交換を行い、都度検討し合っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生を通じ交流機会を得る他、個人面接の中で日頃の課題やストレスについて話し合い、日常的な部分でも気さくな対応としている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員に対して社会的な立場、私的な立場を理解し、精神的負担の軽減を図ると共に都度評価を行い、個々人の意欲向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で本人の状況を把握し、本人の話を傾聴することにより本人の思いや不安を理解し、職員の態度や姿勢にも配慮しながら信頼関係を作れるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまで家族の話を傾聴することにより、家族の思いや不安、ニーズを理解し、職員の態度や姿勢にも配慮しながら信頼関係を作れるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、要望、状況などを確認した上で、改善に向けて必要に応じ関係機関との調整を図り、早急に対応が行えるよう努めている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごし寄り添いのケアの中で喜怒哀楽を共にしながら、日々の様々な生活場面で利用者に向けて教えてもらったり、支えあう関係を築けるよう場面作りや声かけをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に1度家族へ本人の近況をお便りでお知らせしたり、家族来訪時や電話にて本人の様子や思いを伝えることで共に共感を得ながら、協力関係を築けるよう働きかけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	四季の行事や誕生会、1日旅行などホームの行事や食事会へ家族に参加を呼びかけ、家族と本人との絆を大切に、より良い関係の継続に努めている。また、ご家族が来訪時には、本人の日頃の状況を報告しながら、ゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人に訪問してもらったり、友人宅に遊びに行ったりしている。また、バスハイクやドライブなどで馴染みの場所へ外出する機会を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	様々なホームの行事や活動に参加いただきながら、利用者同士の関わり、輪をとりもつよう、職員が間に入り支援している。利用者同士の関係性について、全職員が情報を共有し、把握するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方にも、ホームに気軽に遊びに来てもらえるよう声をかけており、家族の相談にもいつでも応じられる態勢があることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に関わりを多く持ち、コミュニケーションを図ったり、話相手となりながら、本人の思いや希望を把握するようにしている。把握が困難な場合には、本人の視点に立ち、日々の様子や行動、言葉、表情などから思いを察するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面接や契約時、利用後も折に触れ本人や家族や友人、知人より聞き取ったり、情報を伝えてもらい、把握することに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々共に過ごし関わる中で利用者一人ひとりの暮らし方や生活リズムを理解し、職員間のミーティングや申し送りで情報を共有しながら、本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の視点に立ったアセスメントを行い介護計画を作成している。家族より来訪時など話し合いを持ち、意見や要望を聞き入れた上で、定期的な処遇検討会議で職員の気づきや意見を出し合い、反映させるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直し、毎月処遇検討の会議で介護計画に照らし合わせて、経過や評価を話し合いながら、本人、家族の要望や変化に応じて見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の身体的状況と日々の暮らしの様子や本人の言葉、気づきや工夫、受診内容など日中、夜間共に個別に記録し、職員は必ず確認するようにして情報の共有を図り、介護計画の見直しにも反映させるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	周辺地域での買物や外食、散髪、公共施設を利用する時は事前に連絡を行い、協力をお願いしている。また、学校生徒などへ催し物のボランティアへの協力を働きかけたり、消防署からは年2回の防災訓練を通じた協力を得ている。公民館での地域の催しへの参加時はご理解、ご協力を頂き支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者と連携を図り、情報を収集しながら、本人の意向や要望があった場合には他のサービスも利用できるよう支援体制を整えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者主体のサービス提供であることを基本に、各関係機関との情報の共有を図り、かつ家族の協力を得ながら生活支援全般を通し長期的な策定としている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に本人と家族が希望するかかりつけ医や医療機関を把握し、事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医とする場合は、同意と納得が得られるよう説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議の場で利用者を尊重した言葉使い、態度、対応、記録の取り扱いなど具体的に説明し、職員の意識向上を図っている。また居間・台所間の共有スペースでは、職員が利用者に関わることやプライバシーに関する話をむやみに話さないように徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせて声かけ、暮らしの様々な場面で利用者自身が決める機会を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けており、その日、その時の本人の状態や気持ちを把握しながら、思いや希望を尊重し、可能な限り柔軟に対応するようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人主体に身だしなみを整えてもらい、不十分なところを手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には、本人の好みや気持ちにそよう職員と一緒に考えて着替えを準備している。理美容院は本人の望む店、馴染みの店で好みの髪型にしてもらえるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を収穫したり、調理、盛り付け、片付けまで、できること、得意なことなどで力を活かしていただきながら利用者と共同で行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで、食事を一緒に楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな飲み物、おやつや漬物など買い物に行く機会を作り、本人自身で選びながら、日常的にお茶の時間や食事時に楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々の排泄記録や職員間の申し送りで個々の排泄パターンの把握に努め、必要時前誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3時半頃から夕食前までの入浴時間になっているが、希望のある方には随時入浴していただいている。一人ひとりゆったりとくつろいで入浴できるよう配慮している。	○	本人や家族へこれまでの生活習慣、希望や意向を具体的に聞き取り、形式的、一般的対応ではなく、希望に沿った入浴支援を中心に行うことが望ましい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースを見守りながら、日中の活動で適度に身体を動かしてもらうことで夜間の安眠につなげるよう支援している。活動後や外出後、昼食後等心身の状況に応じて、ゆっくり休息が取れるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で本人ができること、望むこと、得意なことでの役割の場面を作り、感謝の言葉を伝えるようにしている。ホームでの日々の活動や、様々な行事などの楽しみごとは利用者の希望も取り入れながら支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に相談しながら本人の希望や力に応じて、小額を手元に所持してもらっている。買い物や外出時には本人がお金を持ち、支払う機会を作っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気をみながら一人ひとりの希望や気分に応じて、日常的にホームの畑を見に行ったり、外気浴や散歩、買い物やドライブに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行ってみたいと思う場所が出されたときは、職員会議で実現に向けての具体的な方策を話し合っている。バスハイクや日帰り旅行などの行事計画に利用者が希望する場所を取り入れて検討し、支援につなげるようにしている。また、家族への参加や協力が得られるよう働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話など本人の要望に応じて、プライバシーに配慮しながら支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は明るい挨拶と笑顔を心がけ訪問者を歓迎するようにしている。お茶をすすめながら居間や居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者は会議を通し、身体拘束の内容とその弊害に関して指導し、全職員へ共有認識を図っており、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は鍵をかけないよう利用者の行動を常に見守り、把握するようにしている。外へ出ようとする様子がうかがえた時はさり気なく声をかけ、一緒に行動を共にするなど、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員と利用者が共に過ごす中で、常に全利用者の状況を把握し、見守るように気配り、目配りの意識付けのもと努めている。夜間は時間毎に利用者の様子を把握し、それ以外にも、少しの物音でも確認に行くようにし、安全確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、薬品や洗剤、刃物などの保管管理を行っているが、利用者が使用時は職員はさりげなく見守りながら注意を払い、自然な暮らしの場で力を発揮し活かせるよう支援している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を設置している。日々のヒヤリハットを報告・収集し職員の共有認識を図り、一人ひとりの状態から予測される危険と防止策を話し合いながら、事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力のもと、定期的に救急法の講習を全職員が受け、習得するようにしている。また、夜間も想定した緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら春と秋の年2回、夜間も想定した訓練実施計画のもと、利用者と共に避難訓練を行っている。運営推進会議では近隣の地域住民や消防団の協力が得られるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族訪問時は本人の日々の活動や外出、ホームの様々な行事へ参加時の様子や暮らしぶりを報告しながら、自由に暮らしていただくなかで起こり得るリスクについても説明し、家族と話し合いながら理解を得るよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子や変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、日中、夜間共に申し送りを徹底している。状況に応じ主治医に報告し、指示をいただきながら早期対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量が記載されている概要を受け取り、ファイルに保管し、職員が内容を把握できるようにしている。利用者の状態の変化に関しては、かかりつけ医へFAXや電話にて情報を伝え、指示をいただいている。服薬時には本人に手渡し、見守りと確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝体操を行っている。会議を通し、利用者の活動性について話し合い、日中の活動性を高め、支援に結びつけるように働きかけている。また、繊維質の多い食材や乳製品を食材に採り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きとうがいの声掛けを行い、利用者の力に応じて、洗面所への誘導や見守り、一部介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日記録表に食事や水分、おやつ摂取状況を記録し、職員が確認している。苦手なものがある利用者に対しては、量や栄養バランスに配慮しながら好みのものを提供するように努めている。一人ひとりの状態に応じ、食事形態を工夫して提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、会議や職員研修などを通して具体的な予防策、対応策の取り決めを作り、周知を図り、実行している。利用者および家族に同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員業務分担により衛生を保持している他、台所、調理用具等の衛生管理の職員間の取り決めがあり、点検表を用いながら定期的に行っている。食材発注担当の職員がおり、適正な発注量と調整、在庫管理を毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにプランターやベンチを置いたり、花壇や建物周囲に季節の花を植え、明るく親しみやすい雰囲気となるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や照明に関しては日中、夜間共に利用者の活動や状況に合わせて、職員が配慮している。また、居間と台所のつながった空間により、生活感のある音や匂いを感じていただいている。また、共用の空間に季節の花を飾ったり、畑で収穫した食材を食事に用いながら、季節感を採り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブル席以外にもソファ席(冬期間は堀コタツのスペースになる)を置き、廊下にもソファを置いて、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へは入所の際、また入所後も必要に応じて来訪時や電話にて馴染みの物や家具の持ち込みを本人とも相談しながら協力が得られるよう伝えており、居室には本人の馴染みの物や家具、仏壇、好きな物、写真などが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物全般に空気の入替えを行い換気に努めている。利用者の状態や反応に配慮しながら、換気の時間や冷暖房を調節している。トイレなど空気清浄機や消臭剤を設置し、気になるにおいが出ないように対策している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、テーブルや椅子、ベッドの高さを調節するなど、安全確保に配慮した生活・居住環境の見直しと改善を行い、自立支援に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗が生じた場合は要因を探りながらその都度職員間で話し合い、本人の状態に応じて環境や物品を工夫し、わかる力を活かせるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日常的に外気浴を楽しんでいただいております。物干し場では、洗濯物を干したり、取り寄せたりしており、その他、園芸や菜園、水撒きや草取り、余暇活動、行事、お茶会などで様々活用している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

民家改装であるピュアグローブは、一般家庭そのままの居住環境を残し落ち着いた家庭的な雰囲気のもと、ご利用者様と職員がゆったりのおんびりとした中で共に生活を営みながら、住み慣れた地域でのより馴染みのある暮らしの場となるよう、日々取り組んでおります。当ホームでは年間を通し、四季の祭りをはじめ、様々な行事・活動を計画、実施しており、季節感を感じていただきながら五感刺激に触れ、楽しいひとときを過ごしていただけるよう支援しております。ご利用者様とご家族様、職員、地域との絆を大切にしたい触れ合いから、利用者本位のケアを目指しております。